

Alert 反天皇制運動 23号

[通巻 405 号]
2018 年
5 月 8 日発行

第 23 期・反天皇制運動連絡会

今月の Alert

● Jアラートが停止した今こそ、私たちの主張と問題意識を突きだそう！——*2

● 反天ジャーナル ● —— 大橋にゃおこ、映女、狸の皮 *3

● 状況批評 ● 朝鮮学校差別から見える植民地主義 —— 佐野通夫 *4

● ネットワーク ● 「天皇代替わりに異議あり！」 関西連絡会」を発足 —— 寺田道男 *7

● 風通しの良い社会の対極にあるのが天皇制 —— 稲葉みどり *8

● 太田昌国のみたび夢は夜ひらく (96)

● 板門店宣言を読み、改めて思うこと —— 太田昌国 *9

● マスコミじかけの天皇制 (22)

● 〈天皇 (制) は「構造的沖縄差別」の象徴である —— 〈壊憲天皇明仁〉その 20

—— 天野恵一 *10

● 野次馬日誌 *11 集会の真相 *14

● 学習会報告 *15

● 反天日誌 *15 集会情報 *16

5月3日、原宿で行われた「明治公園オリンピック追い出しを許さない 明治公園国賠まるわかり集会」に参加した。主催は、同国賠訴訟原告団。2020 東京オリンピックのメインスタジアムとされる新国立競技場の建て替えに伴って、都立明治公園が廃止され、そこに長く暮らしてきた野宿者が、2年前の4月に強制執行がかけられて追い出された。これに対して、当事者である元住人や支援団体が原告となって、JSC (日本スポーツ振興センター)、東京都、国を相手どってこの3月に提訴。いわば、その訴訟団のキックオフ集会である。

JSC が明治公園の住人を「債務者」として、「占有地からの退去」を求めた仮処分を裁判所に申請し、いつ強制執行が行われるかわからないという時期に、その JSC の門前で (!) 住人と支援者がおこなった記者会見について、私も本欄に書いたことがある。ひどいことばかりだ。これまでの当事者との話し合いを一方的に破棄し、さまざまな脱法行為やでっち上げ逮捕までして、住人の生存権を踏みにじった行政と JSC、そして都民の公共の財産である都立公園を、オリンピックを奇貨として、大手ゼネコンや政財界の利権のために売り飛ばす東京都や国 (詳しくは『反天皇制運動カーニバル』36号の渥美昌純論文など)、そして、そうした問題を隠蔽し、「異論」を封じ込めるナショナル・イベントとしてのオリンピック。こういったことをあらためて今回の集会で聞き、当事者の発言や強制排除の映像を見聞きしながら、頭の中ではずっと「野蛮な資本主義」という言葉が響いていた。

集会で最も印象的だったのは、映像で写しだされた、かつての明治公園の、今は失われてしまった緑豊かな「四季の庭」の姿を見て、そこに暮らしていた元住人が「なつかしい」とつぶやいたこと。奪われた風景、奪われた暮らし。資本のための「開発」が、人にとってかけがえのないものを壊していく。その、国と資本があげる勝利の凱歌こそがオリンピックなのだ。(北)



250 円

● 定期購読をお願いします (送料共年間 4000 円)

● 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス
東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net

● 最新情報はこちら ▶ www.ten-no.net/

今月の
Alert

Jアラートが停止した今こそ 私たちの主張と問題意識を突きだそう!



これまでも意識的に情報を得ようとしていたのだが、四月二七日の南北首脳会談は、しかし閉ざされた列島に住まう者にとつては、やはり驚かされるものだった。メディアに流された映像、その演出の一つひとつの周到さはもちろん、断片的に伝えられてきた事実にも、みるみるうちに繋がりを与える構想力は圧倒的なものだった。「板門店宣言」はまだ弱い内容にあるし、両国が戦争状態にあることが利益になる勢力は、内外にお数多く困難は大きい。とはいえ、引き続き米朝首脳会談や、南北米中の交渉による平和協定の枠組みの設定などがあり、そうした要因を織り込みながら今後の日程が組み立てられていることも、期待されうるものを示すと感じる。

「最大の限の圧力」「断交」をがなり立て、直前には「新たな核実験の兆候」などとデマを流して否定され、関連諸国間で長足に進捗する外交の状況すらも何一つ把握していないトランプな姿をさらけ出した安倍政権担当者と官僚たち、またバラエティ番組の「有識者」などは、砂の上でひっくり返った虫のように、いまなお手足をバタバタさせ醜態をさらしているのだろう。しかし、私たちはこれを「蚊帳の外」と嘲笑っているわけにはいかない。いまこそ歴史的な責任を明らかにさせて、私たちのなすべきことをしていかなければならないのだ。

私たちはかつて、二〇〇二年一〇月十一日付けで「『日朝会談』以後の状況への

『緊急声明』を発表した（反天皇制運動 PUNCH 24号）。訪朝した小泉首相に対し、金正日委員長（いづれも当時）が「日本人拉致」の事実を認め、同時に「日朝ピョンヤン宣言」が発表されたことである。「日朝ピョンヤン宣言」における、「国交正常化交渉の再開」、「国際法を遵守し、互いの安全を脅かす行動をとらないこと」の確認、「北東アジア地域の平和と安定」に向けた協力、等々の積極的な意味を評価しながらも、それが前年の「九・一一」後のブッシュによる報復戦争状況下において無効化されることを危惧し、「拉致問題」をきっかけにした在日朝鮮・韓国人たちへの脅迫・暴行や差別の拡大を批判する立場を明らかにした。同時に、「ピョンヤン宣言」において日本国家が「過去の植民地支配によって、朝鮮の人々に多大の損害と苦痛を与えたという歴史の事実を謙虚に受け止め、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明した」ことを前提にするなら、なすべきことは、国家賠償「経済協力」はもとより、被害者のそれぞれに對する謝罪と個人補償であり、それこそが求められていることを主張した。

私たちは、日本国家と天皇制の植民地責任・戦争責任が、歴史的になし崩しにされて明らかにされず果されていまいということを、反天皇制運動の活動の中で、一貫して主張してきた。その立場から、「ピョンヤン宣言」前年になされた日本軍性奴隷制についての「女性国際戦犯法廷」への協力を行ない、

右翼暴力団による妨害にも力及ばずながら身を張って抗してきた。こうした活動を、この東アジアの歴史の大きな転換点でも、微力ではあるが断固として追求していきたい。金正恩とトランプによる米朝首脳会談の後に「日朝首脳会談」が実施されるとするならば、そこでは、「日朝ピョンヤン宣言」の内容が粗上りのほり、日本の戦争責任があらためて問題とされる。実績の貧しい政治家は、それを蔽うためにより派手かつ愚かなふるまいをしがちだ。当選時の公約どころか政権内もガタガタのまま中間選挙が近づき、ロシアンゲートに苦しむトランプや、核開発とミサイルの軍事に傾斜した国家経済の安定と浮揚をめざす金正恩、相次ぐスキャンダルと腐敗にまみれながら、最悪の差別排外主義と歴史修正主義にその勢力を託している安倍らが、どのような動きをするかは予断を許さないものがある。

私たちは今年の四月にも、二八・二九日と連続で「明治一五〇年 日本（ヤマト）」による沖縄差別を問う「連続行動を行なった（集会報告参照）。さきに触れたような現在の国際政治の展開の中では、場合によっては、在韓米軍、さらには在日米軍や自衛隊などの位置づけも大きく変わりうる可能性も、まったくありえないわけではない。だからこそ、私たちは、天皇代替わり過程の中で、こうした問題意識をつねに研ぎ澄まししながら、自分たちと世界との関わりを問い直していかなければならないと考えている。（蝙蝠）

「まいまいひめ」

私の出身地、新潟県長岡市には「まいまいひめ」なる彫刻像が市の中心地からちょっと外れたところに鎮座している。「まいまい」とはカタツムリのこと、笛を手にした少女が巨大なカタツムリに乗っているのである。子どもにはイミフであった。しかし謎は、祖母など戦争体験者の語りによって何となく解けた。

長岡市は過去に2度、大きな戦火に見まわっている。1度目は戊辰戦争、2度目はアジア太平洋戦争の「長岡大空襲」で…。現在「まいまいひめ」が建つ一帯は焼け野原となり、それから13年後の1958年に「二度と戦争が起らないように」という願いを込めて、地元の新潟相互銀行（1989年破たん）から寄贈されたのだそうだ。作家は長岡市出身の廣井吉之助という人で、これとは別に「平和像」というのも手掛けており、私が子どもの頃は「明治公園」という場所にあったのだが、今から10年程前に作られた「平和の森公園」とかい場所に移されている。こちらの「平和像」は新潟県教職員組合が中心となって募金を募ったのだとか（1951年完成）。

現在「まいまいひめ」は、「好きな人と行くと結ばれる」という恋愛系パワースポットになりつつあるらしい。像についての案内板もあるのだが、前述の平和への思いはスッポリ抜けている。私が子どもの頃は祖母や母を始め、「生き証人」から成り立ちの話は聞けた。それなのに「イミフな像」のままである。

（大橋じゃお子）

映画「マルクス・エンゲルス」

2018年はマルクス誕生200年。東京の岩波ホールでは映画「マルクス・エンゲルス」が公開されています。連日満員の盛況！

映画は、1843年プロシャの悪名高い「木材窃盗取締法」により、森で枯木を集めていた貧農たちに官憲が襲いかかる場面から始まります。わずか23歳のマルクスの容赦ない批判の声が重なります。彼は妻とパリに追放に。

パリでマルクスは生涯の同志エンゲルスと会います。そこから、マルクスとエンゲルス、そして妻イエニーによる、資本家の搾取に苦しむ労働者の解放と革命のための理論と実践の闘争が始まります。

映画には論敵であったブルドン、バクーニン、同時代の活動家が登場。マルクスとイエニー、エンゲルスと労働者出身の妻メアリーは「共産主義者同盟」の設立に加わり、1848年、4人が頭を突き合わせ、万国のプロレタリア団結せよ！と締める「共産党宣言」を書きあげます。

最後を飾るのは、ボブ・ディランの「ライク・ア・ローリング・ストーン」と20世紀の革命家の映像。奴隷が解放と植民地からの独立を勝ち取ったハイチ出身の監督ラウル・ベックが描いたコンゴ独立の闘士「ルムンバ」もいます。映画にはハイチの闘士も集会にちらりと登場します。

（5.5Max 誕生日：映女）

反天皇制のため（閲覧注意！）

天皇制なき社会を（暴力革命なしに）実現するためには、なによりもまず、そうした社会を望む賛同者を多く獲得することが必要である。どのくらい賛同・支持・共鳴者がいれば、具体的な力となるだろう。有権者の過半数なら確実だが、それは望むべくもない。政権を担う自民党の党員数は、およそ100万人といわれている。まずはそれと同等の規模の支持者を獲得すれば、たとえ課題が天皇制であっても、対等に闘えるようになるだろう。

では、その数字を目標に動き始めよう。日々の目標としては、毎日10人の支持者を増やす（これは相当に難しいが、集会やパンフ、出版物等で数十人・数百人と一挙に支持者を増やすこともありえるので、とにかく一日平均10人を目指す）。すると、10年で3万6000人。ガンバって続ければ、278年後には100万人に達し自民党の党員数とほぼ肩をならべることになる。もちろん自民党の党員が減っていれば、もっと早く追いつく。

ただここで課題が明らかになった。200歳以上生きる人が相当に多くないと目標は達成できないという点だ。天皇制をなくすには、皆がもっと長生きする必要がある。がんばりましょう！

（居酒屋「狸の皮」論争）

反

天



ジャージャーナル

状況批評

思想・状況・批評

朝鮮学校差別から見える植民地主義

佐野通夫 「高校無償化」からの朝鮮学校排除に反対する連絡会

二〇一〇年施行された「高校無償化」制度から、朝鮮高校のみが排除され、既に八年になる。この間、毎年数百人の高校生が「無償化」の適用にならないまま、入学し卒業している。「高校無償化」から排除された高校生や卒業した大学生たちは、毎週金曜日午後四時から文科省前で抗議行動を継続している。貴重な時間と金を抗議行動に使わせていることに胸が痛む。学生は叫ぶ。

「日本の植民地支配がなかったら、私たちが日本で生まれることはなかっただろう。私たちは日本の植民地主義の負の遺産として日本で生まれた。日本国政府は過去の植民地支配をなかったことにしたいので、朝鮮と名の付くものをなくしたいとして、朝鮮に対する弾圧を公にしている。」

まさしく文科省前での学生たちの叫びには、植民地主義の本質が現れている。

二〇一三年一月から、大阪、愛知、広島、福岡、東京で、高校生または学園を原告とする「無償化」裁判が闘われている中で、二〇一七年七月二八日、大阪地裁は、文科大臣が行なった朝鮮学校の不指定を取り消し、文科大臣に指定を義務付ける原告完全勝利判決を言い渡した。

しかし、七月一九日、広島地裁は「本件学校について、就学支援金を支給したとしても、授業料に係る債権に充当されないことが懸念される、簡単に言ってしまうと、朝鮮人は金をごまかす人間で信用できないという、非常に差別的な言葉を法廷で読み上げた上で敗訴を言い渡している。東京地裁も、九月二三日、不当な原告敗訴判決を下した。「無償化」裁判の中で、原告は高校無償化法の趣旨、それをどう解釈しなければならないかを主張

しているが、被告国が言っていることは、公安調査庁の観点から見た朝鮮学校像の提示、朝鮮、朝鮮学校は悪いものだという主張でしかない。

二〇〇九年十二月、「在特会」によって京都朝鮮第一初級学校にむけて次の言葉が投げつけられた。「ここは北朝鮮のスパイ養成機関」、「ここに働く括弧付き教師についても単なる北朝鮮のもつとも優れた工作員である。教師とは縁もゆかりもない学校の名に値しない。教師の名に値しない」。

二〇一三年一〇月七日、京都地裁は、これらの言動を不特定多数人に告げる行為は、「原告の学校法人としての社会的評価たる名誉・名声を著しく損なう不法行為である」と認定し、この判断は、大阪高裁、最高裁によって維持された（各二〇一四年七月八日、一二月九日）。「高校無償化」裁判で被告国が主張する朝鮮高校と朝鮮総聯の像は、このような「在特会」の不法行為たる言動と変わることはない。

残念ながら、日本における朝鮮、朝鮮学校をめぐる言説は、上記「在特会」のヘイトスピーチと変わることはなかった。敗戦直後から、マスコミは、政策の意図を反映した差別と偏見に満ちた朝鮮人像を作り上げていった。ドブロクを作り、密輸をし、暴力をはたらき、騒擾を起こす。これが、マスコミによって描かれた朝鮮人像であった。

「高校無償化」からの朝鮮学校排除という国家による「民族差別」以降、右翼言論による朝鮮学校差別、朝鮮敵論が吹き荒れ、日本国政府による朝鮮学校差別の風潮に乗じて、長年の運動によって築き上げられてきた地方自治体による朝鮮学校への補助金（国による補助金はない）を停止する首长たちが現れた。大阪や、神奈川、東京等の自治体では、「学習指導要領」

と朝鮮学校の教育内容の対比が無理やりに行なわれている。日本の「学習指導要領」に従って教育を行なうのならば、わざわざ困難を背負って民族学校・外国人学校を運営する必要などない。日本人の教育と異なるから民族学校が必要なのである。

不当な補助金停止に対して、大阪朝鮮学園が大阪府・市の補助金停止の不当さを争った裁判で、二〇一七年一月二十七日、大阪地裁は「補助金の交付を受けられないことにより、結果として、原告が運営する学校に通学する児童、生徒及びその保護者の学習環境の悪化や経済的負担の増大等の影響が生ずることが懸念されるところではあるが、本件補助金が学校法人への助成という枠組みを前提としている以上、やむを得ないといわざるを得ない」という判決理由をわざわざ読み上げて、原告敗訴判決を言い渡し、二〇一八年三月二〇日、大阪高裁もこれを追認した。

千葉の朝鮮学校では、一九七〇年代からの日朝友好運動、八〇年代になってからの補助金要請運動によって、一九八三年四月に千葉朝鮮学園振興協議会が設けられ、二〇〇一年には二〇市町が補助金を支出してきた。しかし、二〇〇八年から脱会する市町が現れ、二〇一三年三月、振興協議会は解散した。千葉市は市単独補助金として予算化していた二〇一二年度分の同学園への補助を止め、以降は補助金を支給していない。「経常費補助金」を支給していた千葉県も一年度から支給していない。

協議会が解散した後、学校や市民の働きによって、二〇一三年二月一日に「千葉市外国人学校地域交流事業補助金交付要綱」が制定された。これは、学校が開催する美術展と芸術発表会費用として、補助をするというものであるが、二〇一四年度と一五年度に、予算の五〇万円を下回って支出された。そこには在日朝鮮人の印刷所に印刷物を発注したものは申請から除け等の理不尽な指導もあったという。経営者が在日朝鮮人であろうと、正當に営業し、納税しているにもかかわらず。

そして二〇一六年度分については、二〇一六年九月五日交付決定をしておきながら、二〇一七年四月二十七日、突然に「交付決定取消」を通知して

きた。交付決定取消の主な理由として市は、美術展において「いわゆる従軍慰安婦をテーマとした絵」があり、そこに次の解説があったことをあげている。

「当時まだほとんどが二十歳も満たない少女たちが、儲け話があるといわれ連れていかれ、従軍慰安婦にされた。そこでは少女たちは人として扱われず性的暴行を受けて軍人らのおもちゃにされた。朝鮮人としての尊厳、女性としての尊厳を奪われた。そのことを戦後七〇年経った今日に至る長い間、口に出せなかった被害者達がいる。二〇一五年の一月二十八日に被害者達を象徴する少女像を撤去することを条件に保証金一〇億円を支払うとし、この両国間の取り決めに『最終的且つ不可逆的に』解決したと宣言して、当時の日本軍の戦争犯罪を追及することが今後できなくなってしまう。私はこの事を知って被害者達の尊厳はどうなるのかと憤りを感じた。決して従軍慰安婦問題は忘れないことだけでなく大日本帝国の軍医によって性奴隷化が執行されたという点を認めること。日本政府が全ての犠牲者に法的効力を持つ謝罪と賠償をして、全ての人々の尊厳が尊重される社会を作り上げることが今を生きる我々の責任である」

市は「前記解説には、いわゆる従軍慰安婦問題についての日本国民の多数の認識とかなりの乖離がある表現が含まれており、『美術展』において、このような表現が含まれている解説を掲出することは『地域住民との交流に資するもの』とすることが極めて困難と言わざるを得ない」というのである。

「日本国民の多数の認識」などと称して、「日本国民」の中にも、この高校生と同じ考えを持つ正當な少数派（？）がいることを認めつつ、各人が意見を持つことを封じている。

美術展には、近隣の学校の子どもの作品も展示され、それ故に「外国人学校地域交流事業」であった。補助金停止は、あくまで市長が補助金を停止したというだけの問題であるはずである。学校は補助金がなくても、これまでと同じように交流の美術展を開催しようとしたが、翌二〇一七年の美術展においては、これまで子どもたちの絵画を出展してきた近隣の学

校から、子どもたちの絵画を出展できないと言ってきた。「高校無償化」からの排除、補助金停止問題は、朝鮮人を当たり前の隣人、同じ社会の構成員として見る感性も奪っていくのである。

二〇一八年三月二三日には、監視のため、常に警察が取り巻いている朝鮮総聯本部に銃弾が撃ち込まれるという恐るべきテロ事件が起こった。「テロとの戦い」を軍事力増強の名目としている安倍政権は、この恐るべきテロ事件を一言も批判しなかった。そればかりでなく、マスコミも東京新聞等、ごく一部のマスコミを除き口をつぐんだ。ここでも、朝鮮人を社会構成員として見る感性が奪われている。

「ウリ（私たちの）ハッキョ（学校）はウリ（私たちの）故郷」という美しい歌がある（ヤン・クムニョ作詞、イ・ヘジン作曲）。

「お祖父さんが語ってくれた故郷には行けなかったけど、私たちにも、私たちにも親しんだ故郷がある。」

民族の魂を植え付けてくれる言葉と文字を学び、

私たちの国、私たちの土地が大事であることを学ぶ

ウリハッキョは、ウリハッキョは私たちの故郷だ」

多くの朝鮮学校は二〇一五年から一六年にかけて七〇周年を祝った。すなわち、朝鮮学校は植民地下において抹殺された朝鮮人の民族性（言語、文化）を再生し保持するための存在であるのである。中華学校が一〇〇年以上の歴史を持つのに反し、朝鮮学校は、一九四五年までその存在を許されなかった。

一九四五年八月一日、朝鮮人は自主的な朝鮮語の学習を開始した。子どもたちに朝鮮語の読み書きを教えることを目的に、「お金のある人はお金を、力のある人は力を、知識のある人は知識を！」の合い言葉の下、「国語講習所」と呼ばれる小さな教育施設が各地に簇生した。この自主的な教育施設は、翌一九四六年九月には学校教育として整備され、五二五校に約

四万四〇〇〇人が学んだといわれている。

この時期は、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国が創建（一九四八年）される前である。「無償化」裁判で、被告国は朝鮮学校と朝鮮総聯、朝鮮民主主義人民共和国との関係を問題にするが、朝鮮学校は国家の意思で作られたのではなく、在日朝鮮人の意志によって作られた学校なのである。

日本の民衆は、敗戦によって何も学ばなかった。植民地清算を果たすことなく、現在に至っている。「明治一五〇年」を祝賀させてはならない。「明治一五〇年」がなしてきたことを、植民地支配を、弱者の切り捨てを、明らかにさせねばならない。朝鮮人に対しては何をしても良いという現在の日本の感性、その背景にある継続する植民地主義、その精神的支柱である天皇制を清算していかなければならない。植民地主義清算の道程はまだ遠い。

二〇一八年五月、ソウルに「植民地歴史博物館」が開館するという。「植民地歴史博物館」が必要なのは、日本である。平和の少女像は、ソウル日本大使館前でなく、日本の国会議事堂前に建てられなければならない。

二〇一八年四月二十四日、阪神教育闘争Ⅱ 在日朝鮮人の民族教育守護闘争Ⅱ 七〇周年の日、記す）

*名古屋地裁が「無償化」裁判において、不当な朝鮮学校敗訴判決を下した二〇一八年四月二七日、朝鮮半島では南北首脳が板門店で平和に向けての歴史的な宣言を発表した。

どうして NETWORK

「天皇代替わりに異議あり!」 関西連絡会」を発足

それぞれの反天皇制運動を堅持し、連帯と飛躍を!

寺田道男 (天皇代替わりに異議あり! 関西連絡会)

憲法施行から七一年を迎えた五月三日、「アベ政治を許さない! 生かそう憲法・守ろう9条」5/3憲法集会in京都の集まりの中に、私はいた。いや、その集会を積極的に担いデモの先頭にいた。円山野外音楽堂に三千人集まり、立憲民主党や共産党、希望の党など野党から国会議員も参加し、「安倍9条改憲NO! 3000万署名運動」に共鳴する「安倍9条改憲NO! 全国市民アクション・京都」の京都府下一円で組織した地域のグループがつぎつぎと発言した。しかし、その場では「天皇代替わり」についてだれ一人触れなかった。翌日の朝日新聞に「護憲派9条孫の代まで」と見出しが躍った。また、それに先立つ五月一日、労働者の祭典である「メーデー」に参加した。京都の左派系の二〇〇人余りの「地域メーデー」でユニオン系の組合員がつぎつぎと発言したが、来年のメーデーの日が安倍政権による新天皇の即位で、メーデーそのものがつぶされようとしていることにも、だれ一人触れることもなかった。ただ、そこでは、反戦・反貧困・反差別共同行動in京都の発言があり、発言に立った私一人が「天皇の代替わり」にも目を向けて欲しいと訴えただけだった。

私を含め、二八年前の「Xデー」——天皇の代替わり時に、「天皇制解体」や「天皇はいらない」と声を上げ、行動を組織し、とりわけヒロヒト天皇の戦争責任を徹底的に問い、戒厳令下ともいえる状況下で、

多くの人から共感を得ることができ、右派・保守派の国葬や奉祝にたいして、それを上回る抵抗闘争が、全国各地で取り組まれたと総括している。

二〇一六年七月のいわゆる「天皇メッセ」で始まった「天皇の生前退位」意向から一年後の六月に成立した「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」(いわゆる特例法)は、アキヒト天皇の「生前退位——人間宣言」を支持する九割近い「国民」に支えられ、それを背景にした宮内庁と、安倍政権の「自民党憲法改正案」や日本会議を背景にした天皇の政治利用との確執の中で、この特例法が定められた。

私たち関西各地の反天皇制運動をつづける仲間から、この一連の天皇代替わりの動きに抗したいとの声が上がリ、特例法制定の翌月の八月に、大阪の地で「天皇代替わりに異議あり!」の第一回相談会をひらき、何ができるのか、月一回のペースで協議を始めた。そして同年(二〇一七年)の一月二九日に大阪国労会館で東京の反天皇制運動連絡会の天野恵一さんを迎えて「出発集会」と位置づけて「天皇代替わりに異議あり! 終わりにしよう天皇制——天皇代替わりとどう向き合うのか」の関西集会をひらき、天野氏から憲法と生前退位、特例法——強化された象徴天皇制の発題を受け、大阪をはじめ京都、兵庫から参加した八六人から「関西連絡会」の発足への強い要望を受け、翌年(今年)の一月一五日に発足準備会を設定した。そして、準備会に参加した五〇人

により議論をかさね、その議論の集約としてひらいた二月一二日の第二回準備会で、名称、呼びかけ対象、運営、連絡先を確認して「天皇代替わりに異議あり! 関西連絡会」を立ち上げた。

その関西連絡会は、それぞれの反天皇制運動を堅持し、原則一日共闘。そしてその積み重ねによって、象徴天皇制への意識を醸成、拡大を求め、できれば反天皇制へと意識を向上し、「天皇はいらない」の大きな声をつくり、何とか天皇代替わりと対峙できるよう、努力しよう、というもの。その日常的な取り組みの一環として「元号はいらない署名運動」呼びかけの「新元号制定に反対する署名」活動をおこなうことも確認した。

そして、その関西連絡会の第一回会議を三月二二日にひらき、今秋の九月二七日(木)に大阪で、この「天皇制に異議あり! 関西連絡会」主催による関西集会を決めた。講演タイトルは次回第二回連絡会で決めるが、講師は九州大学名誉教授の横田耕一さん。この集会の成功に向けて、呼びかけ・賛同団体・個人を募りながら、天皇代替わりに向き合う団体・仲間を結集していきたいと思っている。現在、反天皇制市民1700ネットワークをはじめ京都「天皇制を問う」講座実行委員会、兵庫反天皇制連続講座、反戦反天皇制労働者ネットワーク、反戦・反貧困・反差別共同行動in京都、関西共同行動、9条改憲阻止共同行動ら一三団体が呼びかけ団体として名を連ねている。

天皇代替わりに抗する取り組みは、これからだ。われわれを取り巻く情勢は、冒頭に述べたように厳しい。現在の9条改憲阻止の闘いと、どう連なるのか、も考慮しながら、長くて遠い天皇制廃止への道を、微力ながら走り続けたいと思います。全国一円に「非国民」と呼ばれる多くの人たちを作りましょう。

風通しの良い社会の対極にあるのが天皇制

稲葉みどり (岩手からアジアを考える会)

こんにちは！ 私たちは「岩手からアジアを考える会」という小さなグループです。

戦争の足音が聞こえてくる今、私たちの親や祖母たちが関わったアジア太平洋戦争の事実を知り、アジアの一員として武力による平和ではなく交流を通して理解し合う関係を作りたい、そんな思いから三年前の春に女性三名でこの会を立ち上げました。隔月に学習会や上映会を開いていますが、人集めが下手なのかテーマが悪いのか参加者は多くても三十名ほど。それでもめげずに自分たちが学びたいことをテーマとしてやり続けています。

三月のテーマは「天皇制」でタイトルは「天皇制について話そう」。今後も連続してとりあげ来年の代替わりに備えようと思っています。

ヒロヒト天皇を批判し戦争責任を口にする人でも今の天皇には好意的な人が多く、反原発や反安倍に集う人たちからも「民主主義者」とか「護憲」と褒める声がチラホラ聞こえてきています。このため、運動仲間の間でも「天皇問題は微妙だから避けよう」つまり「天皇制はタブー」という雰囲気です。大同団結のために天皇制問題を排除しようということは運動論としては正しいのかもしれませんが、それでも避けていないでまずは語り合ってみることが必要だと思います。

ちなみに今までの学習会のテーマは「靖国神社」「朝鮮半島と日本」「偽満州国で育ってわかったこと」

などなど。上映した作品は松井稔監督の「日本鬼子」や「靖国神社」、班忠義監督の慰安婦三部作、呉徳洙監督の「在日・歴史編、人物編」などで、毎回多岐のことを何より私たちが学ばせてもらっています。

三月三十一日に行った「天皇制について話そう！」第一回目の参加者は十三名。反天連から提供していただいた横田耕一さんのビデオレターを先ず観て、その後それぞれが天皇制について心にひっかかっていること・言いたいことを出し合い、なかなかの盛り上がりとなりました。

日常的に天皇制を意識することとしては何とんでも「元号」ですが、不便だからもういい加減にしてくれ！というのがみんなの共通認識。ささやかな抵抗だけれど市役所などで必ず西暦で記載すると言う人も数人。莫大な皇室費用は全く無駄なものという発言には、みんなで頷くばかり。

教える子を戦場に送ったことからその反省のために頭を丸めていたという教師が叙勲されることになったらしいソイソと天皇に貫いに行き、生徒たちに自慢したということです。こんな気持ちにさせるのが天皇制の魔力でそこに存続の鍵があるのかもしれないと侃々諤々。

また「象徴」や「皇室の品位」って何だろうかとみんなで頭を抱えてしまいましたが、よくわからないことが積み重なって社会の「常識」になってい

るわけで、これこそおかしいこと。私たちは本当に変な社会に生きているのですね。

「差別する側にいたから差別がいかに酷いものかをよく知っている。差別の根源は天皇制にあるのだからこんな制度は早くなくさなければならぬ。何よりタブーのある社会は息苦しく自由を妨げるもの。あの戦争は天（皇）災である」と語ったのは満州で生まれ育ち中学生の時に帰還したというという男性でした。

風通しの良い社会と対極にあるのが天皇制ということを確認し、第一回目の学習会を閉じましたが、「こんな機会は初めて、天皇のこと言いたい放題で面白かった！」というのが参加者の感想でした。天皇制には民主主義や憲法との関係、宗教の問題など数多くの問題点がありますが、この日に出されたように、生活する中でフツとおかしいなと思うことを声に出して行くことが天皇制廃止へとつながるのだろうと思います。盛岡での天皇制についての学習会はまだまだ続けます。

「岩手からアジアを考える会」のことはここまでにして、先日中国で体験したことを紹介します。

日本語を専攻した三十歳になる女性と日本の中国侵略のことを話していた時、こんなことを言われました。

「学校で習ったのではなくて自分で本を読んだり映像を観たりしてわかったんだけど、あの戦争の最高責任者は天皇なのに、米国の助けを借りて東条英機たちに責任を押し付けて自分は責任を免れた。最も責任ある天皇が責任ないことになったのだから、普通の人も責任なんて感じなかったのよね。昔は天皇は神。今は何なの？ アイドルなの？」

みたび

太田昌国の夢は夜ひらく96

板門店宣言を読み、改めて思うこと



去る四月二七日の朝鮮半島南北首脳会談に際して発表された板門店宣言の内容を知って、「日本人拉致問題への言及がない」という感想を漏らしたのは、拉致被害者家族会の会長だった。置かれている立場は気の毒としか言いようがないが、見当外れも甚だしいこのような見解が紙面に載るといっても、二〇〇二年九月の日朝首脳会談以降一六年の長きにわたって日本政府が採用してきた過る対朝鮮政策の直接的な結果だろう。自ら問題解決のために動くことなく、他国の政府に下駄を預けるといふ方針を貫いてきたからである。多くのメディアもまた、その政府の方針に無批判で、日本ナショナリズムに純化した報道に専念している。長い年月、分断され非和解的な敵対関係にあった南北朝鮮の二人の指導者が「民族的な和解」のために会談を行なう時に、なぜ「日本人」に関わる案件が宣言文に盛り込まれるほどの重要度をもち得ると錯覚できるのであるか。藁にも縋りたい家族会の人びとをこのような迷妄的な境地に導き入れてきた政府とメディアの責任は大きい。

金正恩朝鮮労働党委員長は「いつでも日本と対話する用意がある」と文在寅韓国大統領に伝えたという。日本政府は絶好の機会を捉えてすぐ応答することとせずに、首相が中東地域歴訪に出かけるという頓珍漢な動きをした。あまつさえ、去る一月に対朝

鮮国断交を行なったヨルダン政府の方針を高く「評価」した。事ほど左様に、およそ確たる外交方針を持たない日本政府ではあるが、日朝間にも何らかの交渉の動きが近いうちに始まるのではあろう。会談の結果明らかになる拉致問題に関わる内容如何では、両国間にはさらなる緊張状態が高まるかもしれない。今の段階から、その時代風潮に対処するための準備が必要だろう。

私は一六年前の日朝首脳会談直後から、あるべき対朝鮮政策の在り方を具体的に述べてきているので、ここでは違う角度から触れてみたい。対朝鮮問題に関しては一言を有する元国会議員・石井一氏が「約束を破ったのは北朝鮮ではない、日本だ」とする発言を行なっている（月刊日本「二〇一八年五月号」）。氏は日朝議員連盟会長を務め、一九九〇年の金丸訪朝団の事務総長の任にも当たり、先遣隊の団長でもあった。自民党、（まだ存在していた）社会党、朝鮮労働党の三党合意が成ったこの会談に関する氏の証言は重要だろう。朝鮮ではまだ金日成が存命中だった。金丸・金日成の二者会談を軸にしながら、「国交正常化」「植民地時代の補償」「南北分断後四五年間についての補償」の三点の合意が成った。だが、日本国内にあっては、金丸氏に対して「売国奴」「北朝鮮のスパイ」との非難が殺到した。国外にあっては、

日本の「抜け駆け」を警戒する米国からの圧力があつた。自民党の「実力者」金丸氏にして、自主外交を貫くまでの力はなかった。かくして一九九〇年の日朝三党合意は、日本側の理由で破棄されたも同然、と石井氏は言う。

二〇〇二年の日朝首脳会談も「平壤宣言」の合意にまでは至った。拉致問題に関わって明らかにした事実が、被害者家族にとつてどれほど悲痛で受け入れがたいものであつたとしても、また社会全体が激高したとしても、この事実を認め、「拉致問題は決着した」との前提で、宣言はまとめられた。家族会の怒りに「無責任に」同伴するだけの世論と、それを煽るメディアを前に、訪朝と国交正常化までは決断していた小泉氏も屈した。日本の独自外交を嫌う米国からの圧力が、ここでも、あつた。平壤宣言を無視し、国交正常化交渉を推進しなかったのは、小泉氏を首班とする日本側だった——石井氏の結論である。世上言われている捉え方とは真逆である。

石井氏は二〇一四年に「横田めぐみさんはとくに亡くなっている」と公言して、家族会の反発を喰らっている。「被害者全員を生きて、奪い返す」とする安倍路線が破綻していることは、石井氏にも私にも明らかなのだが、今後の事態がいざそれを証明するように展開した場合に、日本社会の「責め」は改めて朝鮮国に集中するだろう。拉致問題をナショナリズムの高揚と自らの政權基盤の維持に利用しただけの政權をこそ批判しなければならぬ。この雰囲気醸成された二〇〇二年以降の過程で、民衆に対する国家的統制を強化し、戦争に備える悪法がどれほど成立したかを冷静に見つめなければならない。

（5月5日記。二〇〇年前に

カール・マルクスが生まれたこの日に）

マスコミの
天皇制 22

天皇（制）は「構造的沖縄差別」の象徴である ——〈壊憲天皇明仁〉その20



三月三〇日の『琉球新報』の「天皇・皇后両陛下沖縄訪問」のタイトルの「評論」は、こう書きだされている。

「天皇、皇后両陛下が二九日、一回目の沖縄訪問を終えられた。今回の沖縄への旅は陛下の強い希望だったという。なぜか、『象徴の務め』としての重い意味があるからだろう。両陛下の活動という『窓』を通し、私たちがその先にある日本という国、そこに暮らす人々に改めて思いを致すことができる。／陛下が模索してきた象徴の在り方は『日本国』と『日本国民』のありようを知らずに答えるは出せないが、北海道から沖縄まで、地域の姿はさまざまだ。『日本の各地、とりわけ遠隔の地や島々への旅も、私は天皇の象徴的行為として、大切なものと感じて来ました。』一昨年八月のお言葉で陛下が語ったのはもつともなことだ。八月には、北海道・利尻島訪問が検討されている」（傍線引用者）。

「天皇の象徴的行為」という自己規定の実践をまったく（もつともなことだ）などと考えるような私たちは、この二七～二九日の天皇としては最後の沖縄行きに抗議する四二八～二九連続行動を展開した。二九日はデモ、前日の二八日には「明治一五〇年 日本による沖縄差別を問う——近代天皇制国家形成から日米安保体制の下で」のタイトルの講演集会。『琉球新報』の「評論」も天皇の役割が遠隔地も包み込んだ「日本国民」としての一体感（ナ

ショナル・アイデンティティ）の組織化という、高度に政治的なものであることを「自白」してしまっている。私たちは今回の訪問の初日、三月二七日が、いわゆる「琉球処分」、武装した兵士・警官が首里城に押しかけ廃藩置県を布達した日であったことに、まず注目した。四人に一人以上の死者がうみだされたという、「国体（天皇制）護持」のための「捨て石」作戦であった沖縄の地上戦という地獄のゴールへ向かう、ヤマトの沖縄支配の政治的ストーリーの日である。その沖縄戦が、米軍の慶良間諸島への上陸というかたちで始まったのが、その前日の（一九四五年）三月二六日である。また、「陸上総隊」なるものをつくり、この陸上自衛隊の全国の五方面隊を一元的に指揮するための司令部の直轄部隊、「離島防衛」の専門部隊として、日本版の海兵隊（なぐりこみ部隊）といわれる「水陸機動団」をおき、与那国に陸上自衛隊沿岸監視部隊が設置されたのも、二年前の三月二八日であった。

この日付の政治的意味に、私たちは十分自覚的でなければならぬ。「本土」のマス・メディアだけでなく、沖縄現地メディアからも、問うてあたりまえの天皇の戦争（それを隠蔽しはぐらかし続けた戦後の）責任を問う声は、ほとんど消滅させられてしまっている。クローズ・アップされているのは、加害者代表の天皇の「平和」への意思と、戦争被害者の、天皇の「慰霊」への感謝（ありが

たいという）の言葉である。

持続する米軍基地強化へ向けた押しつけに「オール沖縄」で沖縄の自己決定権を強力に主張し続けている沖縄住民の政治的パワーを、「本土」との一体感でつみこんで、弱体化させるという安倍政権の野望を支える天皇政治がそこにある。『八重山日報』の二七日の那覇で組織された四五〇〇人の「奉迎」パレード（日の丸と提灯）があったという記事の中に、以下のようなくだりがある。

「自衛隊の陸・空特別編成音楽隊を先頭に、子ども空手の団体などが長い列をなしてパレードした。

やはり天皇と日本軍はセットである。そして沖縄社会から、こうした状況への恐怖や怒りが消滅してしまっただけではもちろんない。それは地元紙も報道しているが、空港などを大量の警察官がくまなく巡回する、物々しい雰囲気（それを象徴している。力で政治的に演出された「歓迎」）なのである。

天皇制と沖縄基地の問題をめぐる運動の中で、私たちと長い交流が続いた新崎盛暉が、この実行委の運動の渦中の三月三一日に亡くなった。二八日の集会では、私は主催者として、スタートの時点で追悼ぶくみの話をする時間をつくってもらった。考えてみれば「構造的沖縄差別」という言葉、運動の中で日常語と化しているそれを、最初に使い出したのは新崎であった。そして、天皇制こそが構造的沖縄差別の象徴である。「生前退位」へ向かう天皇は、その事実の隠蔽のために、政治的な違憲の「象徴的行為」をくりかえし続けてきたのだ。

日本国憲法

4月1日～4月30日

【4月1日】

彬子◆故寛仁の長女彬子が、国士舘大学院人文科学研究科の客員教授に就任。国士舘大によると、日本文化や美術史を研究しており、年に数回、学生を対象に講義をする予定だといひ、京都市立芸術大芸術資源研究センターの客員教授も務めていると報道。

宮内庁人事◆宮内庁が、東大医学部付属病院心療内科助教の稲田修士を待医に、警察庁警備課警護室長の長村順也を東宮侍従に、国際医療福祉大医学部循環器内科准教授を保田壮一郎が東宮侍医に、それぞれ起用する人事を公表。

【4月2日】

明仁、美智子◆「お忍び」で皇居外周を「散策」。宮内庁関係者によると、皇居・東御苑から北の丸公園側に出る北桔橋門を渡って皇居の外に出ると、約10分間をわたって歩いたと報道。

日朝関係◆安倍晋三首相が、自民党の河井克行・総裁外交特別補佐と官邸で会い、政府が実現を模索する日朝首脳会談について「北朝鮮の方から（対話を）求めている状況をつくり出すため圧力をかけて続けた。これからもその方針に何ら変わりはない」。関係者が明らかに。

イラク派兵日報◆小野寺五典・防衛相が、陸上自衛隊のイラク派遣に関し、政府が野党議員の資料要求に「存在しない」と

してきた部隊の日報が見つかったと発表。

【4月3日】

徳仁◆東京・元赤坂にある東宮御所に、アラブ首長国連邦のアブドラ外相を招き、懇談。

代替わり◆政府が閣議で、2019年4月30日の明仁退位と翌5月1日の新天皇即位に伴う儀式の在り方を定めた基本方針を決める。3月30日に政府の準備委員会が取りまとめた基本方針は、「平成」の代替わりの例を踏襲し、即位の礼の中心の儀式である「即位礼正殿の儀」を内閣の助言と承認が必要な「国事行為」とし、19年10月22日に実施すると規定したと報道。「大嘗祭」は、「公的」な皇室行事として開催し、基本方針のうち、「国事行為」で実施するなどとした部分は閣議決定で、大嘗祭を「公的」な皇室行事で行うなどとした点は閣議口頭了解とし、安倍晋三首相が閣議で「基本方針に沿って、国民がこころほぐ中で、退位と即位がつながく行われるよう内閣が一丸となって準備を進める」。政府が、儀式の在り方を巡る準備委員会が3月30日に開いた会合の議事概要を首相官邸ホームページで公表。

「明治100年」◆安倍晋三首相が、東京都内で開かれた国家公務員合同初任研修の開講式で、新人官僚約750人を前に訓示し、当年が明治維新から150年に当たったことを踏まえ、当時は若い官僚が

近代化の基礎をつくり上げた」と主張。五輪警備◆2020年東京五輪・パラリンピックの競技会場などの警備で、大会スポンサーのセコムとALSOOKの2社が中心となった警備会社の共同企業体が設立される。

【4月4日】

明仁、美智子、久子◆明仁、美智子が東京都墨田区の両国国技館を訪れ、バイオリンスト故鈴木鎮一の生誕120周年を記念して開かれた子供供によるコンサートを鑑賞。故高円宮の妻久子が同席。

代替わり◆2019年4月30日に退位し、上皇となる明仁が、徳仁の新天皇即位に関連する一連の儀式に出席しない意向を示していることが、宮内庁関係者への取材で分かった。関係者によると、「剣璽等承継の儀」は、前例を踏襲して皇位継承権を持つ男性皇族が出席するため、明仁は上皇となり皇位継承権を失う上、全ての「公務」を退く意向のためと報道。同様の趣旨で、即位礼正殿の儀などの関連儀式や大嘗祭にも出席しない見通し。

皇居・乾通り◆3月24日から始まった皇居・乾通りの一般公開が終了。宮内庁によると、9日間で計約39万8500人が訪れたと報道。

【4月6日】

明仁、美智子◆大雪で甚大な被害を受けた北海道と秋田、山形、新潟、福井の各県に見舞金を贈る。宮内庁の直江利克・総務課長が、各道県の東京事務所長らに手渡す。

皇太子一家◆宮内庁東宮職が、皇太子一

家が3月26～30日に長野県の奥志賀高原で静養した際、愛子がスキーをしている場面を取った写真と映像を公開。

代替わり◆麻生太郎・財務相が閣議後の記者会見で、翌年に執り行われる明仁在位30年記念式典と新天皇即位の儀式に合わせ、それぞれ記念貨幣を発行することを明らかに。

五輪休日◆超党派の国会議員らによる「海軍振興連盟」（会長・衛藤征士郎・衆院議員）が国会内で臨時総会を開き、東京五輪の輸送、警備対策で7月第3月曜日の祝日「海の日」を、2020年に限って五輪開幕前日の7月23日に移動させることを了承。21年以降の海の日を7月20日に固定することを条件に了承したもので、山の日議連の会長でもある衛藤衆院議員が、一部に慎重な声もある山の日の移動も前向きに検討する姿勢を示す。10月第2月曜日の「体育の日」を開会式当日の7月24日、8月11日の「山の日」を閉会式翌日の8月10日に移す案も最終調整に入り、3日間を休日にする構想が大きく前進したと報道。

【4月7日】

代替わり◆全国カレンダー出版協同組合連合会が、明仁が退位し、徳仁が新天皇に即位する翌年のカレンダーの表記方針を公表。祝日になるか決定していない行事日について、日付の数字は黒とし、併記する行事名を朱色などにするのが柱と報道。4月30日の退位、5月1日の即位、10月22日の即位礼正殿の儀を想定しており、行事名の前に「日の丸」を付ける。

現在の天皇誕生日である12月23日は日付は黒とし、「日の丸」なしで「平成の天皇誕生日」と朱色で併記するほか、5月2日も休みとなる可能性があるが、日付は黒で行事などは併記しないことに。

〔4月9日〕

明仁、美智子◆訪日しているデンマークのベネディクト女王を皇居・御所に招き、懇談。

米軍オスプレイ◆米空軍の輸送機CV22オスプレイの横田基地（東京都福生市など）配備に関連して、福生市の加藤育男市長が、米側が「2019年から20年に（計10機、約450人への）人員増、格納庫増設が行われる」との見通しを示したと明らかに。

〔4月10日〕

天皇、皇族◆結婚から59年を迎えたとして、東京・元赤坂にある皇太子一家の東宮御所で、秋篠宮一家を交え、明仁、美智子の結婚記念日を祝う夕食会が催され、黒田清子が加わる。

皇太子家◆翌年5月1日の天皇代替わりに向け、皇太子一家を支える側近の東宮侍従と東宮女官を、10月1日から各1人増員することが閣議で決まる。宮内庁では、当月1日にも同規模の増員をしており、現在は東宮侍従が6人、東宮女官は5人となっているが、宮内庁組織令の一部を「改正」とすると報道。

〔4月11日〕

明仁◆皇居内の生物学研究所の隣にある苗代に、うるち米のニホンマサリともち米のマンゲツモチの種もみをまく。

「春の園遊会」◆宮内庁が、明仁、美智子が「主催」し、25日に東京・元赤坂の赤坂御苑で催される春の園遊会の招待者を発表。フィギュアスケート男子で五輪連覇を達成した羽生結弦選手や、スピードスケート女子500メートルの小平奈緒選手ら平昌冬季五輪の金メダリストのほか、「国民栄誉賞」を受賞した将棋の羽生善治二冠らも含め、約2500人が招かれたと報道。

〔4月12日〕

明仁、美智子◆東京都港区の国際文化会館を訪れ、スペインのサラマンカ大学創立800周年を記念するレセプションに出席。

死刑◆国際人権団体アムネスティ・インターナショナルが、2017年の世界の死刑に関する報告書を発表。日本では死刑囚の親族や弁護士に事前に知らせず「秘密裏に刑を執行している」と指摘、1997年の永山則夫・元死刑囚以来となつた元少年の死刑執行も問題視。顧問のチアラ・ジョージオが日本について取材に対し、死刑が執行された4人の中に再審請求中の死刑囚が含まれていたと指摘し「日本は改善が見られなかった」と懸念を示したという。

〔4月13日〕

代替わり◆翌年10月22日に皇居・宮殿で行われる即位の礼の中心儀式「即位礼正殿の儀」で、新天皇となつた徳仁が使う「高御座」を、宮内庁が8月にも現在の保管先の京都御所から東京に移送する方向で調整していることが、同庁幹部への

取材で分かる。民間の運送業者に委託し陸路で搬送し、皇居内で修復作業を進める見込みで、政府は、一連の代替わりの儀式について、秋をめどに発足する「式典委員会（仮称）」で具体的な内容を議論する予定だが、宮内庁は、委員会発足後の移送では儀式に間に合わない」と判断し、2018年度予算に計上した約5億円を運搬、修復に充てると報道。高御座と共に保管され、新皇后となる雅子が即位礼正殿の儀で立つ「御帳台」も、京都御所に保管されており同様の方法で移送、修復する。

五輪休日◆超党派の「山の日」議員連盟（会長・衛藤征士郎・衆院議員）が総会で、東京五輪がある2020年に限り、8月11日の山の日を五輪閉会式翌日の8月10日に移すことを条件付きで了承。衛藤会長「移すことは忍びがたいが、特別な年の山の日として位置づけるべきだ。世界にアピールするチャンスにもなる」。

〔4月14日〕

明仁、美智子◆東京都千代田区のアートサロン毎日で開催中の「書画でみるラストエンペラーの系譜『愛新覺羅一族の書画作品展』」を鑑賞。

美智子◆東京都板橋区の区立美術館を訪れ、開催中の絵画展「東京・沖縄 池袋モンパルナスとニシムイ美術村」（主催・共同通信社、同美術館）を鑑賞。

「北海道開拓」◆幕末―明治―初期に北海道の開拓に貢献し「北海道開拓の父」と呼ばれる佐賀藩士島義勇（1822～74年）の顕彰祭が、札幌市中央区の北海

道神宮で開かれる。

〔4月15日〕

美智子◆2月に死去した作家で詩人の石牟礼道子をしのぶとして、東京都内で催された「石牟礼道子さんを送る」の開会前に会場を訪れ、献花したというと報道。

〔4月16日〕

「さざれ石」◆安倍晋三首相が、岐阜県揖斐川町の富田和弘町長らと官邸で会い、同町で採れた「さざれ石」を贈られる。首相「日本国の平和と繁栄が千代に八千代に、こけのむすまで続くように皆さんと力を合わせていきたい」。

夫婦別姓◆夫婦別姓を選択できないのは戸籍法の欠陥で憲法違反だとして、東京のソフトウェア開発会社「サイボウズ」の社長ら4人が国に計220万円の損害賠償を求めた訴訟の第1回口頭弁論が東京地裁で開かれ、国が争う姿勢を示す。

〔4月17日〕

「高御座・御帳台」◆宮内庁が、翌年10月に皇居・宮殿で行われる徳仁の即位の礼で使う「高御座」と「御帳台」を、保管されている京都御所・紫宸殿で報道陣に公開。

〔4月18日〕

明仁、美智子◆東京都内で開かれた日本国際賞の授賞式に出席。

徳仁、雅子◆東京都港区のホテルを訪れ、日米交流団体「ジャパン・ソサエティー」の創立110周年記念式典に出席。徳仁が式典後、レセプションに出席。

華子◆常陸宮の妻華子が、東京都港区のホテルで開かれた「第42回アジアの祭典・

チャリティーバザー」を訪問。

【日の君】処分◆東京都立学校の卒業式と入学式で2010～13年、「君が代斉唱」時に起立せず、懲戒処分を受けた教員と元教員が処分の取り消しなどを求めた訴訟の控訴審判決で、東京高裁が、6人の停職と減給処分を取り消した一審東京地裁判決を支持し、都の控訴を棄却。

【4月19日】

徳仁、雅子◆日仏友好160周年に合わせ、徳仁が9月にフランスを「公式訪問」することを、宮内庁が調整していることが、同庁関係者への取材で分かる。雅子の同行も検討しており、実現すれば、夫妻での海外訪問は3年ぶりとなると報道。皇居一般参観◆宮内庁が、5月1日から皇居内の一般参観で英語によるツアーを始める」と発表。

【4月20日】

明仁、美智子◆皇居で開かれた宮内庁楽部による春季雅楽演奏会を鑑賞。

園遊会◆インターネットの出会い系サイトで知り合った複数の女性と金品をやりとりしながら関係を持っていたことを認め、辞表を提出した新潟県の米山隆一知事が、25日に出席する予定だった明仁、美智子「主催」の春の園遊会を欠席することが、宮内庁関係者などへの取材で分かる。宮内庁は、女性問題が明らかになる前に招待状を送り、米山知事は出席する方向で回答していたが、18日に女性との関係を認める記者会見をした後、県が宮内庁に電話し、欠席を伝えたという」と報道。

【4月21日】

靖国問題◆安倍晋三首相が、東京・九段北の靖国神社で始まった春季例大祭に合わせ「内閣総理大臣 安倍晋三(二名で「真榊」と呼ばれる供物を奉納。

「女性の人權」◆米国務省が2017年版の人權報告書を発表し、日本の職場でセクハラが依然として横行していると明記、日本の女性が職場での不平等な扱いに懸念を持ち続けていると言及したと報道。

【4月22日】

徳仁◆皇居で開かれた宮内庁楽部による春季雅楽演奏会を鑑賞。

【4月23日】

明仁、美智子、眞子◆明仁、美智子が東京都千代田区のJPTタワー学術文化総合ミュージアムを訪れ、訪日したスウェーデンのカール16世グスタフ国王夫妻と共に、日本とスウェーデンの外交関係樹立150周年の記念特別展示を鑑賞。ミュージアムは日本郵便と東大総合研究博物館が運営しており、同博物館で特任研究員をしている眞子が出迎える。

明仁、美智子◆皇居内にある宮内庁車馬課の厩舎を訪れ、伊勢神宮に神馬として寄贈する予定の馬「革新」を見る。夜、訪日中のスウェーデンのカール16世グスタフ国王夫妻を皇居・御所に招き、共に夕食。

靖国参拝◆第4次安倍内閣の閣僚は、靖国神社(東京・九段北)の春季例大祭が開かれていた21～23日、同神社を参拝しなかったが、期間中、木原稔・財務副大臣や有村治子・元女性活躍担当相が参つ

たと報道。

通信システム警備◆警察庁が、警察の通信システムを担う情報通信部門の幹部を集めた全国会議を東京都内で開き、翌年に控えた明仁の退位や新天皇の即位に伴う式典、2年後の東京五輪・パラリンピックの開催に向け、「サイバーテロ」対策訓練などを着実に行うよう指示。

下村妄言◆自民党の下村博文・元文部科学相が、セクハラが疑われている福田淳一・財務事務次官の発言をテレビ朝日の女性社員が録音し、週刊誌に渡したことについて「ある意味で犯罪だ」と22日の講演会で述べた。

祝日移動◆超党派のスポーツ議員連盟などが合同総会を開き、東京五輪のある2020年に限り、既存の祝日を移動させる五輪特別措置法の「改正」案を了承。7月第3月曜日の「海の日」、10月第2月曜日の「体育の日」、8月11日の「山の日」を移し、開会式当日と前日、閉会式翌日を休日とすると報道。

秘密保護法◆政府が、特定秘密保護法の運用の在り方について有識者が議論する「情報保全諮問会議」を首相官邸で開く。「帰国の記帳」◆安倍晋三首相が皇居で「帰国の記帳」。

鴨場◆宮内庁が、埼玉県と千葉県にある「鴨場」の見学会を、6、9月にそれぞれ4回ずつ実施すると発表し、参加者の募集を始める。

朝鮮人強制連行◆韓国外務省幹部が、南部の釜山市東区庁を訪れ、在釜山日本総領事館前の区が管理する歩道に日本の植

民地支配下で徴用された朝鮮人労働者の像の設置を目指す市民団体に断念させるよう協議することを要請。

【4月24日】

明仁退位◆訪日中のスウェーデンのカール16世グスタフ国王夫妻が東京都内で記者会見し、翌年4月末の明仁の退位に関し、国王「陛下自身が決めたこと」で、日本の国民がその決断に理解を示したのだと受け止めている。明仁、美智子と23日に夕食を共にした際も、退位が話題になっただけというが、具体的な内容は明かさなかったと報道。

徳仁、雅子◆訪日しているスウェーデンのカール16世グスタフ国王夫妻の招きで、東京都千代田区のパレスホテル東京を訪れ、国王夫妻と共に昼食。

辺野古新基地建設警備◆米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への移設工事を受注した大成建設から海上警備を委託された警備会社「ライジングサンセキュリティサービス」(東京都渋谷区)が、業務に当たった人数を増やし、人件費約7億4千万円を過大請求しようとしていたことが、防衛省への取材で分かる。

【4月25日】

天皇、皇族◆明仁、美智子「主催」の春の園遊会が東京・元赤坂の赤坂御苑で開かれ、1940人が出席。徳仁、雅子ら皇族が参加。雅子が、負担を考慮して途中で退出したと報道。

久子◆訪日中のスウェーデンのカール16世グスタフ国王夫妻が神奈川県鎌倉市を

訪れ、高齢者のための自動車運転支援技術や、認知症の人向けの通所介護事業所を視察。故高円宮の妻久子が同行。

米軍再編交付金◆防衛省が、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先である同県名護市に対し、在日米軍再編の影響を受ける自治体が対象となる再編交付金計29億8千万円の支給を決定。

報道自由度◆国際ジャーナリスト組織「国境なき記者団」（RSF、本部パリ）が、2018年の世界各国の報道自由度ランキングを発表。日本は前年の72位から67位に順位を上げたものの「慣習や経済的利害による束縛」「フリーや外国人記者の活動制限」などの問題点が重ねて指摘され、「福島第1原発事故」「沖縄駐留米軍」の報道を巡り「一部の愛国主義者が『国辱的』などと不当な非難を行った」と批判したと報道。

【4月26日】

紀子、眞子◆東京・上野の国立国会図書館国際子ども図書館を訪れ、オランダの児童書や絵本を集めた展示会「オランダの金の筆と銀の筆—子どもの本の世界」を鑑賞。

性教育◆東京都教育委員会が、中学校の性教育で学習指導要領の範囲を超える内容を扱う場合、保護者の了承を得た生徒に個別やグループで指導することなどを促す対応策を公表。

強制不妊手術◆旧優生保護法（1948（96年）下で障害者らに不妊手術が繰り返された問題で、群馬県優生保護審査会が事前に指定した医師とは別の医師が本人同意のない手術をし、旧厚生省が法律違反と指摘した事例があったことが、県に情報公開請求した資料で分かる。

【4月27日】

明仁、美智子◆東京・永田町の憲政記念館で開かれた内閣府主催の「第12回みどりの式典」に出席。／英王室のウィリアム王子とキャサリン妃に第3子となる男児が誕生したとして、エリザベス女王に祝電を送った、宮内庁が発表。

眞子◆宮内庁が、眞子が7月中旬から下旬にかけ、ブラジルを「公式訪問」する方向で検討していると発表。日本人がブラジルに移住してから110周年を記念する式典などに出席すると報道。

代替わり◆菅義偉・官房長官が記者会見

で、翌年4月30日の明仁退位まで約1年となったことに関し「国民がこぞつて」とほぐ中で、退位と皇太子さまの即位がつながりなく行われるよう最善を尽くす。翌5月1日の新天皇即位に伴う新元号の公表時期について「国民生活への影響に配慮し、今後適切に検討を進める」。

朝鮮学校◆朝鮮学校を高校無償化制度の対象から外したのは違法として、愛知朝鮮中高級学校（愛知県豊明市）の卒業生10人が国に計550万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、名古屋地裁（福田恵子・裁判長）が請求を棄却。

南北首脳会談◆北朝鮮の金正恩・朝鮮労働党委員長が、板門店の韓国側施設「平和の家」で韓国の文在寅・大統領と会談。

【4月28日】

美智子◆東京・銀座のギャラリィで、前年5月に死去した彫刻家舟越直木の作品展を鑑賞。

「春の褒章」◆政府が2018年春の褒章受章者を発表。受章者は694人、うち女性とは過去最多の211人、受章団体数は22、発令は29日で、紫綬褒章は、フィギュアスケートの羽生結弦選手やスピードス

さまでした！

今年の反天皇制運動の実行委員会は、明治一五〇年キャンペーンに抗していくことを一つの大きな課題として立てている。2・11行動に引きつづき、4・28集会もこの課題視点で準備を進めた。

文京区民センターで行われた講演集会の講師は湖南通さん（日本近代法史）。湖

ケートの小平奈緒選手から平昌五輪・パラリンピックの金メダリスト9人が受章したほか、作家の夢枕獏や東大名誉教授で政治学者の御厨貴が選ばれたと報道。

日朝関係◆韓国の文在寅・大統領が、安倍晋三首相と電話会談し、北朝鮮の金正恩・朝鮮労働党委員長が27日の南北首脳会談の際「いつでも日本と対話を行う用意がある」と述べたことを伝えた、韓国大統領府が明らかに。韓国大統領府によると、文大統領が金委員長に、首相が歴史問題を清算した上で北朝鮮との国交正常化を望んでいると伝え、金委員長が対話意欲を表明したと報道。

【4月30日】

代替わり◆明仁の退位まで、あと1年となったと報道。

歴史認識◆マレーシアのマハティール元首相が共同通信とのインタビューで、靖国神社は「中国人にとつて敏感な問題だ」と話し、安倍晋三首相は隣国の心情に配慮する必要があるとの認識を示す。

美智子の「真相」

天皇「代替わり」と安保・沖縄を考える4・28—29連続行動

今年も4・28—29連続行動として、天

南さんは沖縄・辺野古の座り込み闘争から戻って来られたばかりで、お話しはそのホットな報告から始まった。湖南さんを始め多くの座り込む人たちがごぼう抜きにされ、背中では米軍基地のフェンス、目の前に機動隊の壁が立ちちはだかる空間に押し込まれ、そこはいかに象徴的な空間で、米軍と日本警察によって作られた

牢獄に入れられたようだったと、語られた。「明治一五〇年」と沖縄の歴史、現在のヤマトと沖縄の関係を象徴するシーンでもある。

講演では、琉球国が天皇制国家に併合されていく過程とその差別的な政策、その目的が沖縄を「国防の人柱」として利用することであったことなど、文献を紹介しながら詳細に語られた。そして、日本の敗戦、天皇メッセージ、沖縄の米軍統治時代、沖縄返還から現在へと続く。現在の沖縄と日本の関係、沖縄の基地問題を理解するために必要な歴史を、ポイントを絞って話していただいたのだと思う。とてもわかりやすく、批判とユーモアに富んだお話だった。

「学習会報告」

加納実紀代編『女性と天皇制』

（思想の科学社、一九七九年）

本書は、一九七七年一月から翌年六月までかけて雑誌『思想の科学』に連載された一八本の論文を、連載の編者でもあった加納実紀代が単行本としてまとめたものだ。もちろん、加納さん論文もある。

各論文には執筆者の生年月日が付されていて、一番の年配者是一九〇七年生まれで、次が一九一一年生まれ。ほか二〇年代八人、三〇年代五人、四〇年代二人、五三年一人。地域、世代、経験と、それぞれに異なる女性たちだ。敗戦を大人に

講演後、沖縄・一坪反戦地主会関東支部、基地・軍隊はいらない！4・29集会、安倍靖国参拝違憲訴訟、機動隊沖縄派遣住民訴訟、優生保護法の問題、元号いらない署名等、短い内容の濃いスピーチをもらって終了。集会参加者一〇六名。

翌二九日の反「昭和の日」のデモは、一貫して「天皇はいらない」を主張するデモとして準備。大きな「天皇はいらない」の横断幕（実際は縦断幕）もつくった。デモ出発前には常磐公園で、実行委から前日の集会の報告を簡単にし、元号いらない署名、辺野古への基地建設を許さない実行委員会から、デモ終了後も、多摩地域メーデー、労働運動活動者評議会、

明治公園オリンピックク追い出し国賠訴訟からアピールをもらった。

デモ中は、警察が右翼街宣車がデモに接触しないように周辺で止めていたように、もっぱら歩道で騒ぐ右翼とそれを取り囲む警察があちこちで団子になっていた。右翼の被害が少ない時は決まって警察の規制のひどさが目立つ。「私たちは軍隊ではない、そのような口調の命令をしないでくれ」と、何度声を荒げたことか。背中を押す、参加者の肩や背中を平気で触って「前へ、前へ」「詰めて！詰めて！」とくり返す警察に、参加者も腕を振り払ったり、抗議をくり返していた。それでもデモは気持ちがいい。デモ参加者一〇〇名くらい。実行委員会の行動はまだ続く。

なあって、あるいはそれに近い年齢を迎えた人が半分を占め、子ども時代の人を含めると大半が戦中を知る世代だ。戦中を「アカ」として過ごした人もいる。彼女たちは七七年当時、年配のお二人を除く全員が、今の私の年齢よりも若い。七七年当時、私は二〇歳で、執筆者たちと同時代を生きていたわけで、なんだか微妙な古さと近さを覚えるのだった。

敗戦から三二年後の天皇制批判は、まだ生々しい戦中の記憶から紡ぎ出された

数は力なり。継続は力なり。これからもご参加お願いします！



4月14日（土）● 福富節男さんを偲ぶ会

● 救援連絡センター総会

4月15日（日）● 東京MXテレビへの抗議行動の報告・交流集会

4月19日（木）● 原発被ばく労災あらかぶさん損害賠償裁判第7回口頭弁論

4月22日（日）● 検証：原子力規制委員会の5年半

4月25日（水）● 辺野古海上座り込みに応ずる官邸前行動

4月27日（金）● 安倍靖国参拝違憲訴訟控

ものが多い。三二年といえば反天連の年齢よりも若く、その生々しさも理解できる。彼女たちが語り批判し否定する天皇制の内実は、家父長制であり、排除の論理であり、無責任とエゴイズムであり、貧困であり、飢えであり、教育による全体主義であり、国家であり、教育による。そしてそれらは、自らの経験から絞り出すようにして言葉にされたものが大半だ。

ではここで問題。

「アーレタツサンカライクセンリ」とは？これがわかれば年齢もバレルよ。

次回は五月二九日。テキストは君塚直隆「立憲君主制の現在——日本人は「象徴天皇」を維持できるか」（新潮選書）。

ぜひご参加を！

（大子）

学習会で初めて本書を読んだという参加者も数人。私もその一人だ。加納さん編集の本書を読んでいなかったことを少し恥ながらレポートした。その形式は、論者の言葉（文章ではない）を抜粋しながら紹介する形をとった。なぜなら、ま

訴審第1回口頭弁論

4・28ー29行動▼28日：明治150年：日本(ヤマト)による沖縄差別を問う▼29日：反「昭和の日」デモ(集会報告参照)

5月3日(木) ●憲法集会2018

●明治公園園地贈るわかり集会(表紙コラム参照)

東京上野情報 INFORMATION

開催中／7月末予定 ●日本人「慰安婦」の沈黙

13時～18時(月・火・休日休館)／W A M・女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅ほか)／連絡先：同館(03-3202-4633)

5月13日(日) ●辺野古新基地NO！沖縄「日本復帰」46年を問う

18時／南大塚ホール(JR大塚駅)／主催：一坪反戦関東ブロック(090-3910-4140)

5月19日(土) ●「国営昭和記念公園」を歩く

10時集合／昭和記念公園砂川口(JR立川駅北口からバス、昭和記念公園砂川口下車)／問い合わせ：砂川平和ひろば(0012-5363-167 宮岡)

●許すな！朝鮮総連への銃撃！跳ね返そう！ヘイトクライム

12時45分開場／日本キリスト教会館4F(地下鉄早稲田駅ほか)／石橋孝、在日本朝鮮人権協会／主催：差別・排外主義に反対する連絡会、ほか

5月20日(日) ●第31回反基地駅伝

10時集合／砂川学習館南側広場(JR

R立川駅北口からバス、砂川4番ほか下車)／問い合わせ：同実行委員会(0012-5243-24 河野ほか)

●「平成」代替わりの政治を問う・連続講座第5回「新たな「人間宣言」」ってなんだ？——ソモソモ天皇って人間なの神なの

13時30分開場／ピープルズ・プラン研究所(地下鉄江戸川橋駅ほか)／鶴飼哲、天野恵一、米沢薫／主催：ピープルズ・プラン研究所(03-6243-5748)

5月23日(水) ●警視庁機動隊沖縄への派遣は違法 住民訴訟第7回口頭弁論

11時開廷・東京地方裁判所103号法廷(地下鉄霞ヶ関駅)／連絡先：警視庁機動隊の沖縄への派遣中止を求める住民監査請求実行委員会(juninkansaseikyuu@gmail.com)

5月26日(土) ●美ら海壊すな 土砂で埋めるな国会包囲行動

14時／国会周辺(地下鉄永田町駅ほか)／共催：基地の県内移設に反対する県民会議(098-833-3218)ほか

●原発労働者は団結して要求する！5・26春闘集会

18時／文京区民センター2A(地下鉄春日駅ほか)／梅田隆亮、池永修、あらかぶ、見口要、斎藤征二、佐々木史朗／主催：被ばく労働を考えるネットワーク(090-6477-9358 中村)

5月31日(木) 三井不動産抗議デモ

11時集合／常磐公園(JR神田駅ほか)／よびかけ：宮下公園ねる会議(070-6667-9604 ほか)

●米空軍特殊部隊オスプレイの横田配備を許すな！北部集会

18時30分／としま産業振興プラザ・男女平等推進センター研修室(JRはか池袋駅)／大洞俊之／主催：有事立法・治安弾圧を許すな！北部集会実行委員会(03-3961-0212 北部労法センター)

6月6日(水) ●安倍靖国参拝違憲訴訟控訴審第2回口頭弁論

13時30分開廷・東京地方裁判所・高等裁判所101号法廷(地下鉄霞ヶ関駅)／16時30分／報告集会・総会 日本キリスト教会館4F(地下鉄早稲田駅ほか)／連絡先：安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京(noyasukun2013@gmail.com)

6月9日(土) ●基地はいらない！練馬駐屯地デモ

12時集合／徳丸第二公園(東武東上線東武練馬駅)／主催：有事立法・治安弾圧を許すな！北部集会実行委員会

●止めるぞ！土砂搬入集会

18時30分／文京区民センター3A(地下鉄春日駅ほか)／高里鈴代、垣花暁子／主催：辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会(連絡先：090-3910-4140 一坪反戦関東ブロック)

6月16日(土) ●問い直す「1968」再考：「叛乱の時代」を

18時30分／文京シビックセンター3C(地下鉄後楽園駅)／松井隆志／主催：研究所テオリア(03-6273-7233)

6月24日(日) ●シビル連続講座 未来か

らの透視—ロシア革命百年 第1回

14時／柴中会公会堂(JR立川駅)／太田昌国／主催：シビル(0012-5243-9014)

6月25日(月) ●学習会「天皇皇后」は、なぜ人気があるのか

18時45分／練馬区厚生文化会館(西武池袋線はか練馬駅)／松井隆志／主催：アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える・練馬の会(090-5208-583 池田)

6月30日(土) ●明治150年と領土問題

～真実の歴史を見つめ直す～
13時15分開場／連合会館(地下鉄小川町駅ほか)／黒田伊彦・久保井規夫・趙吉夫ほか／主催：明治150年と竹島・独島を考える集会実行委員会(03-3372-9401 新時代社)

●おしつけないで！リバイティ・デモ「君が代」強制と処分をはねかえそう

18時30分／ウィメンズプラザザ視聴覚室(地下鉄表参道駅)／澤藤統一郎／主催：同実行委員会



●すいー！今日は早いぞ！ まだ7時前！ ゆっくりい飯できるね。原稿さえ揃ってればこんなに早い。作業当日に原稿を書くのは止めましょう。みんな頑張るつねー 来月はお手伝いできません

……… じゃあ。また来るね。

本日のアニマルは木竜、鰐、蝙蝠、熊、猯がお送りいたしました(黒豹)

